

後記 雜感

昨秋、濱田泰三館長ならびに矢澤西二事務長が退任し、奥島孝康新館長、今井半新事務長が就任しました。新中央図書館開館にむけ、その基本的方針を引き継ぎながら、さらに新たな時が築かれつつあります。

四月には、所沢キャンパスに人間科学部および人間総合研究センターが誕生し、同キャンパス内に早稲田大学所沢図書館が開館されます。個人カードシステムによる自動入館、図書貸出や端末機を利用してのオンライン情報検索システム等、図書館の機能が十分に果せるよう最新の設備を整えた図書館です。百周年記念事業の一つである「総合学術情報センター構想」が所沢図書館の開館により、具体化の一步を踏み出したことになりました。もとより図書館の善し悪しは、設備やシステムといったハード面だけで評価されるのではなく、所蔵されている資料であり、またよりよいサービスを提供できる館員の質であるわけで、館蔵資料の充実、館員の質的向上のために、日頃からの努力が何をおいても必要となつてき

ます。本誌がそういったソフト面の向上に役立つものとなればと思います。

学内外にむけての活動の一つとして、六十一年度には、「軍記関係資料展」「近世文学貴重資料展」「近代詩歌早稲田四人展」を開催いたしました。これは、館蔵資料を一般に広く公開するとともに、校友をはじめ、閲覧者からの情報を得て、さらに充実した資料の収集をはかることを目的としたものです。六十二年度にも、「窪田空穂展」など、いくつかの展示開催が予定されています。

昨年九月十三日、当館館員である中沢保さんが亡くなりました。中沢さんは、本誌に「南大曹田蔵名家書翰輯目録」(第一号)「南大曹田蔵蘭学者書翰」(第三号)「舍務日誌について—東京専門学校創立当初の資料」(第四号)「館蔵極東国際軍事裁判記録目録」(第五号)等をお寄せになり、本誌の発展、充実に力をお貸し下さいました。中沢さんをしのんで編まれた館内報「図書館ニュース 薦—中沢保氏追悼号—」(第六五号)を読んで、三十余年の長きにわたり図書館内外で御活躍の、そのお姿を懐かしみます。謹んで御冥福をお祈りいたします。

昨年六月に編集委員の交替があり、今号より新委員会が編集を担当することになりました。精一杯やるつもりでおりますので、どうかよろしくお願いいたします。

(編集委員 馬場静子・岩佐圭子・金子宏二・鎌倉喜久恵・中西裕・雪嶋宏二)

早稲田大学図書館紀要 第27号

昭和六十二年三月三十一日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要 編集委員会

発行人 今 井 半

印刷所 早稲田大学印刷所

発行所 早稲田大学図書館

東京都新宿区西早稲田一ノ六ノ一